

馬橋小学校における情報モラル教育について

日頃より馬橋小学校の教育にご協力くださりありがとうございます。

現在、生成AIの浸透など、私たちの生活におけるデジタル機器の在り方は常に変化しています。

子どもたちの生活においても、学校で学習用タブレットを扱ったり、放課後スマートフォンを使ったりするなど、デジタル機器を日常的に使用している現状があり、その関り方について丁寧に指導していく必要性が高まっています。

本校の情報モラル教育についてまとめました。その趣旨をご理解いただき、学校と家庭で連携しながら子どもたちを育てていきたいと考えております。どうぞご協力よろしくお願ひいたします。

○馬橋小学校 情報モラル教育の軸となる考え方

自律

「情報社会を善く生きる、自律したデジタルシティズンの育成」

自らを律して適切にデジタル機器を扱う力。学習を深めるために積極的に活用しつつ、自分で使用時間をコントロールしたり、インターネット上の誘惑や危険から回避したりできるように子どもたちを育てていく。デジタルシティズンシップとは、デジタル技術を活用して社会に責任をもち、積極的に参加、貢献できる能力のこと。

1 小中学生の間で起きやすいネットトラブル

- ① 文字だけのやり取りによる誤解、気持ちのすれ違い
- ② グループLINEでの仲間外れ、いじめ
- ③ 深夜の使用によるストレス
- ④ 写真・動画の無断投稿、グループへの配信
- ⑤ ネットリテラシー不足による不適切コンテンツ、暴力暴言の影響
- ⑥ “既読・未読”など、インターネットを24時間常に意識し、誘惑されてしまう心理的負担
- ⑦ ネットショッピングやゲームの課金アイテム等の金銭トラブル



※学校と家庭で連携し、子どもたちを見守りデジタルシティズンシップを醸成していく。

2 学年ごとの情報モラル教育の重点

段階	目標とする自律の姿	学校での指導重点	家庭との連携 / 家庭の役割
低学年	『ルールの習得』 大人との約束を守って使う	【約束と健康】 ・時間を守る、使いすぎない、隠さない ・勝手に持ち出さない。 ・健康への影響を知る	『環境を作る・ルールを決める』 ・フィルタリングの設定 ・使用時間や場所を親と決めて守らせる。
中学生	『自律への移行』 善悪の判断と危機回避	【相手への配慮と危機回避】 ・個人情報の重み ・不適切サイト ・課金 ・ゲームトラブル ・文字コミュニケーションの誤解	『インターネットとの安全な関り方を身に付ける』 ・親子で話し合って、ルールを設定し、考えながら運用させる。 ・インターネットの安全な使い方について話し合う。
高学年	『自律の確立』 社会的責任を理解した上で適切に活用	【社会的責任と市民性】 ・法と権利 ・情報の信憑性確認 ・発信者としての責任 ・自他の権利と時間を守る ・いじめ等を賢く避ける態度	『自律できる支援、環境づくり』 ・なぜダメかを納得したルール作りの上で、見守る 相談に乗る ・困った時に相談できるよう気にかける ・子供のデジタル機器の利用実態を把握し続ける ・自らルールを守る姿勢を見せ、正しい使い方を親子で共に守る環境を作る

3 生成AIの使用について

子どもたちが生成AIを「人間中心」の視点で使いこなすために、AIに使われるのではなく、主体的に道具として活用する態度を養う。教育活動の目的達成に必要かつ効果的であると判断された場合に限り、情報モラル教育とセットで安全な環境で導入する。

※馬橋小学校では以下のことを児童にさせていません

思考の丸投げ： 読書感想文や宿題レポートなどをAIに作らせ、提出すること。

コンクール応募： AI生成物を自分の作品として応募すること（規約違反・著作権の問題）。

未熟な段階での自由利用： 情報活用能力が育っていない段階で、教師の指導なしに使用されること。